

「未来が過去を決める」

～過去が今を決めるのではない～

士師記 16:20-22

みなさん、新幹線の構造を知っていますか？新幹線はあのスピードで安全に走るために、柔らかい素材で中が膨らむ構造になっていたり、外の車体は衝撃に耐えるためにぼこぼこになっていたり様々な工夫がなされています。だから、今まで一度も大きな事故が起こったことがありません。私たち人間はどうでしょう。あなたはどのように作られているか知っていますか？我々人は破裂しやすくなっています。自分を抑えられない人が増えてきています

■ 士師記 16:20～22

今日はサムソンの姿を通してみていきます。サムソンの母は不妊の女でした。このことは当時、とても痛みでした。そんな中でサムソンは生まれました。神様はつかいをやって両親に①ぶどう酒や強い酒を飲ませてはならない②死体に近づいて血に触れさせてはいけない③頭に刃物を当ててはいけないということを伝えます。これがナジル人（清く生きる人）の誓願です。何かのために誓う、その結果神様の力を与えてくださいという今でいう「献身」のようなものです。だから「清さ」が大切でした。サムソンは力が強く、すごい能力をもっていました。私たちもそうです。神様は私たちをつくったときすばらしく作りました。しかし、私たちは自分を「制御する」という能力がどんどん退化してきています。みなさんの能力は正しく用いられていますか？私たちの価値観が過去の土台にあったら、どんどん私たちは間違った方向にいつてしまいます。サムソンの両親は神様のつかいがやってきたときに、神様のことだとわかっている部分もありましたが、わかっているところもありました。だからその子であるサムソンもそうでした。サムソンは異国の女性に恋をします。その後、様々な誘惑の結果「死んだものに近づいてはならないという」約束も「お酒を飲んではいけない」という約束も破ってしまいます。約束は知っていたのにです。そして、最後「デリラ」という女性に心をとらわれ、その誘惑にも負け「髪をそると力がなくなる」という自分の弱点を言ってしまう結果その約束も破ってしまいます。「彼は【主】が自分から去られたことを知らなかった。」（士 16:21）おもしろいことにこの時、サムソンは自分から神様が去ったことを知らなかったのです。サムソンはすごい力を神から与えられたものなのに、自分の所有物だと思っていました。その結果力を失った「ただの人」になってしまいました。サムソンは「だめなこと」だけあって、「何のため」がありませんでした。だから彼がやっていることはいつも根柢が「仕返し」でした。（士 16:28～31）士師は立派なはずなのに最後の最後まで「復讐」だったのです。

■ ①してはならないことをしない

サムソンはしてはならなかったのは3つだけ

でした。それなのに3つとも破ってしまいました。神様はそれでも憐み深く、去りませんでした。結局学ばませんでした。みなさんがしてはならないことは何ですか？

■ ②過去と今の目を捨てる

「常識」がガンです。自分を普通だと思っていますが普通なんてありません。私たちがやるべきことは聖書の中で「ベストである」ことだけです。それなのに私たちは自分の持論を語ってしまうのです。サムソンもサムソンの両親も自分の持論で行動してしまいました。代々自分の持論でしか生きていなかったのです。サムソンは最後は戻り、ペリシテ人を滅ぼしたけど、人生の前半はよくなかったのです。だからよくしなければいけないのは「今」です。しかし過去と今ばかりを見ていたらできません。私たちが見ないといけないのは未来です。「なぜこんなことが起きているのか」を考える必要がありますが、私たちは考える前に怒ったり、逃げたりしてしまいます。しかしその問題を解決するまで未来はありません。その時はリスクがあるかもしれないが、そこから奇跡が起こります。だから逃げてはいけません。

■ ③神のことを思う 神様不在

みなさんは神様不在ではないですか？（士 16:28～31）サムソンは神様が不在になって力を失ってしまいましたが、戻ると力を取り戻し、最後はペリシテ人を滅ぼしました。私たちが神様から離れると、考えることも思うこともいつも問題や不安からの対処になってしまいます。しかし私たちが神様と一緒にいるときには、私たちに将来と希望を与える計画を立てます。その場その場で間違った態度をとりません。怒りの感情が出たときどうしていますか。「私は悪くない」はいけません。そして自分の心の言葉を3つ捨てていますか？最後に神様を思い出したのではだめです。今感じましょう。ペテロは「神のことを思わず人のことを思っている」と言われました。みなさんは同調するだけになっていませんか？はたまた理屈だけになっていませんか？どちらかではいけません。両面を気を付けていないとサムソンになってしまいます。

まとめ

イエス様の人生はマリヤという女性から生まれ、大工として生き、3年の公生涯の後、十字架に架かり、埋められ復活したという人生です。人間的に見ればつまらない人生かもしれませんが、そのようなことからいつも神様は奇跡を起こされます。神様のやることは不思議なのです。私たちの人生はイエス様が十字架に架かって救われ変わりました。だから私たちが祈るとき「今」を変えることができます。逃げることをやめましょう。そして、今を変えるために、過去ではなく将来を見ていきましょう！！

（要約者：岩崎 祥誉）

（8月7日）